



聞く・聴く・効く

他のことを考えていたり、ぼんやりしていても音や声は耳に入ってきます。しかし、音や声が耳に入るだけの状況を「聞いている」とは言いません。「聞く」とは耳で音や声を感じ取ることです。聞こうとすると、人の耳は素晴らしいもので、たくさん入ってくる音の中から特定の音だけを聞き取ることができるそうです。講演や会議をレコーダーで録音すると、たくさんの音が録音されていてびっくりします。私達の耳は、聞こうとすれば様々な音の中から必要なものを選び出して聞くことができるのだと実感します。

耳に入ってくる音や声を、心を傾け注意して受け止めようとするのを「聴く」と言います。「傾聴」という言葉がありますが、心を傾げるから傾聴、相手の言葉を心で受け止めるのが「聴く」ということなのです。

相手の話を心で受け止める時に、人は話し手の方を必ず注目します。だから、「話は目で聴く」と言って子どもたちにも指導するのは、心で話を受け止めるということを形からも学んでほしいと願っているからです。

実際に実験が行われた例もあるようです。

アメリカのある大学で、学生に話をする時、学生の前から指示するのと後ろに回って指示するのでは、指示した内容の定着度に倍近い大きな違いが出たそうです。「話を目で聴く」ことができる状況で話すのと、「話を耳で聞く」という状況で話すのは大きな違いです。

子どもたちの学習でも同じ事が言えます。先生の話す「耳」だけではなく「目」で聴くことができるようになると、今よりもっともっと学習が分かるようになっていくと思います。目で聴くことは学習の定着に「効く」のです。

また、話し手にとっても目で聴いてもらえると、聴いてもらっているという実感があります。大事にされているという印象が深まります。話を目で聴き、心で受け止めることは人を大切にすることです。大切にされていると感じたら人を粗末にはしないのです。目で聴くことは人間関係作りにも「効く」のです。

先日、授業を参観していると姿勢が悪く先生の方を見ていない子どもたちを見かけました。学習も人も大事にできない残念な姿でした。自分を甘やかしては伸びるものも伸びません。注意しましたが、受け止めたでしょうか。

【対応をお願いします】

わたしたちの羽合小学校では12月にはインフルエンザが大流行し、180名を越える子どもたちを出席停止にしなければならませんでした。今は落ち着きましたが、1月になって鳥取県中部地区では患者数が急増し、学級・学年閉鎖を行う学校も増えています。手洗いやうがい、マスク着用など対応をお願いします。12月はA型の流行でしたが、B型も発生しているようです。2回目にかからないようよろしくお願いします。

羽合小学校 寺谷英則